

「シビックテック チャレンジ YAMAGUCHI」 キックオフ & オンライン 説明会

令和3年5月28日（金） 13:30~14:30



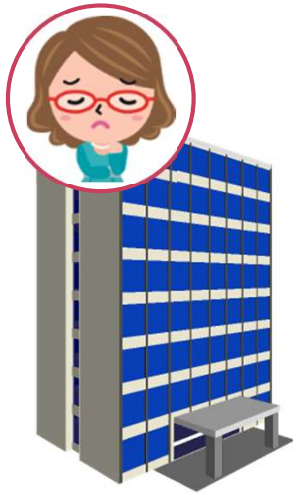
- 会議には、カメラOFF、マイクミュートでの参加をお願いいたします。
- 質問がある場合には、チャット機能で所属と質問を入力をお願いいたします。
- 説明会は録画する予定です。後日視聴したい場合は連絡してください。

次第

- (1) 「シビックテック チャレンジ YAMAGUCHI」について
- (2) シビックテックの取組事例紹介
「URBAN INNOVATION JAPAN」における取組について
- (3) 質疑応答
- (4) 課題募集について

「シビックテック チャレンジ YAMAGUCHI」の取組イメージ

地域・行政課題



自治体



スタートアップ企業等

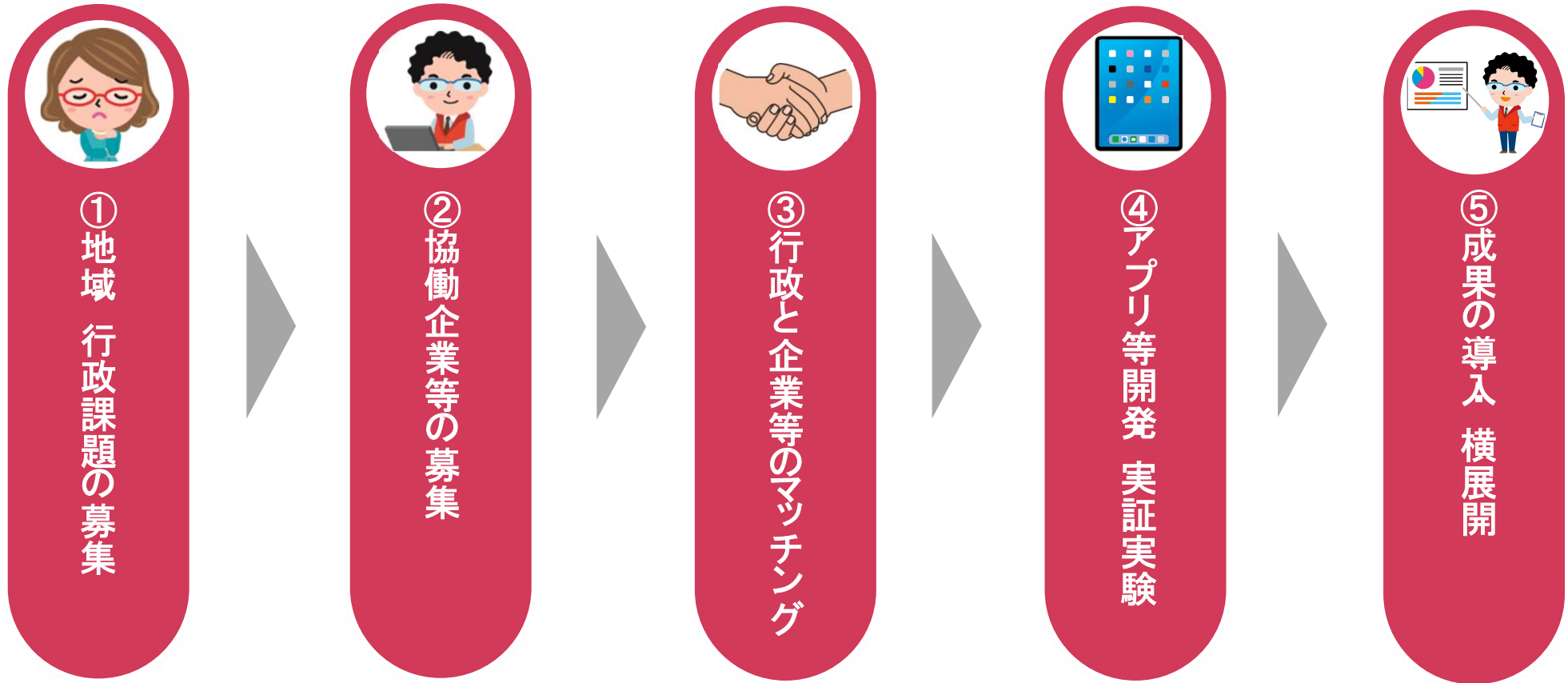
協働開発・実証実験

(アジャイル開発、住民参加実証)

※仕様書がない課題解決手法

課題解決・住民サービスの向上

「シビックテック チャレンジ YAMAGUCHI」の取組の流れ





地域課題解決プロジェクト 「Urban Innovation Japan」 成功事例・失敗事例

2021年5月28日

「シビックテックチャレンジYAMAGUCHI」キックオフ&オンライン説明会

NPO法人コミュニティリンク

一般社団法人Urban Innovation Japan 代表理事

吉永 隆之



吉永 隆之
アーバン・イノベーション・ジャパン事務局
元神戸市イノベーション専門官

これまでのキャリア

東京で10年間、IT企業に勤める（NTTコムウェア、アクセンチュア）

福島県浪江町で町民アプリの開発

神戸市でベンチャー企業を育てる仕事

- ・ 官民連携ビジネス創出事業「アーバンイノベーション神戸」
- ・ 500 Startups Kobe Accelerator
- ・ ルワンダ事業 など

私自身の経験① 浪江町での経験

課題解決のために、良いサービスを作りたいのに、地域だけでは解決できない



＜行政におけるシステム発注の課題＞

- 仕様を書かないと発注ができない。
- 良い事業者を探すコストへの理解が薄い
- 契約が「請負」を前提としていて、仕様の変更が柔軟にできない。
- 事業者の参入のハードルが高い。

私自身の経験② 神戸市での経験

一方、産業振興の側面でも従来のやり方が通用しなくなっている。



神戸市での経験
(産業振興側)

＜産業振興やスタートアップ支援の課題＞

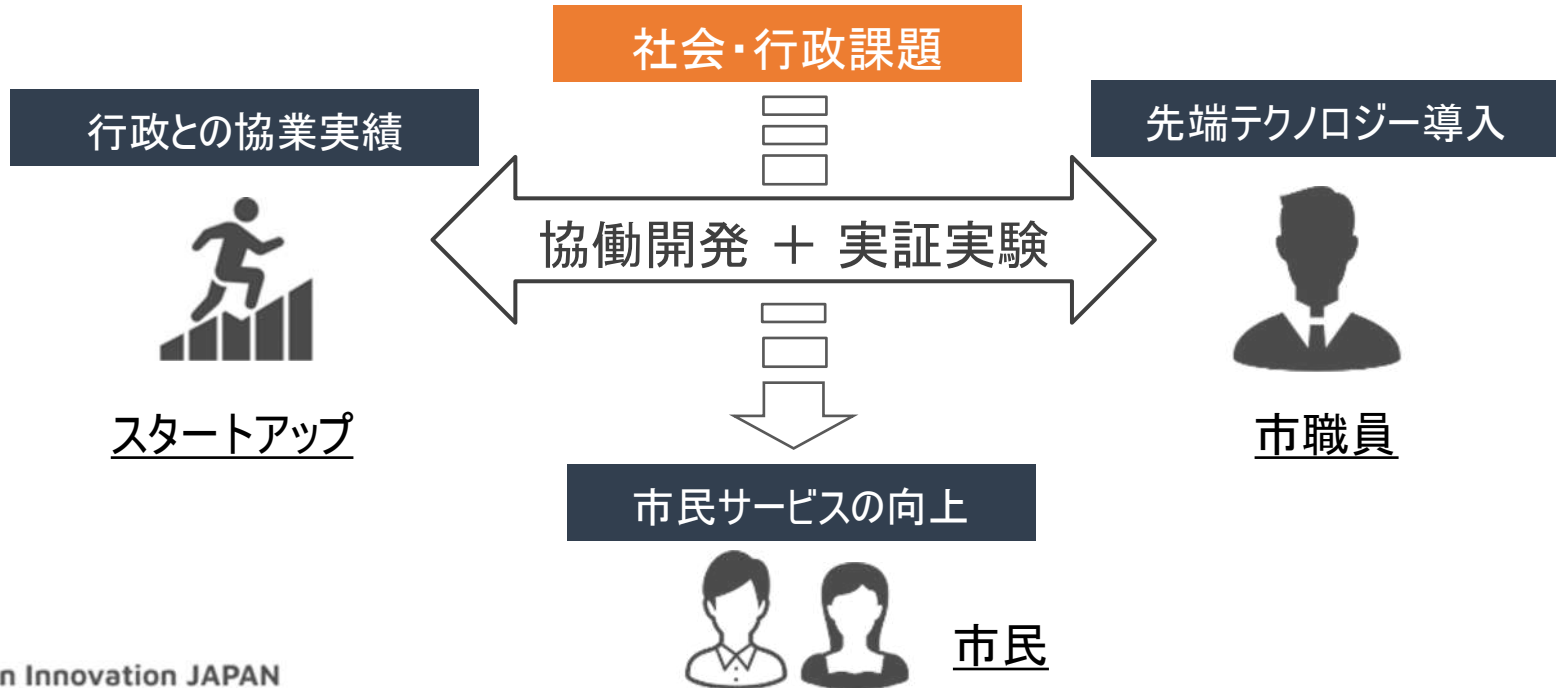
- 補助金頼みで誘致しても、メリットやストーリーが弱いと離れてしまう。
- 企業からの持ち込みを担当に持っていても、受け入れてもらいづらい。
- ピッチコンテスト、アクセラレーターだけやっても定着しづらい。

Urban Innovation KOBE

スタートアップと行政職員が協働する、新たな地域課題解決プロジェクト

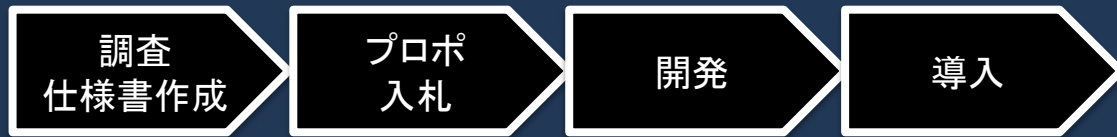
Urban Innovation とは？

スタートアップと市職員が協働して
行政課題や社会課題の解決に取り組むことで、
スタートアップの成長と市の課題解決を目指す取り組み



Urban Innovationのメリットは？

従来のシステム調達



現場ニーズに合わない
使い勝手が悪いなどの問題が発生

Urban Innovation による調達



スタートアップとの
協働・実証実験

Urban Innovation Japanの進め方

庁内課題募集



現場担当課の職員が手を挙げて、プロジェクトがスタート。主に解決したい困りごとはあるが、予算や解決手段を持たない人が参加。

1ヶ月半程度

スタートアップ 募集・選定



実証実験が可能なサイズ、スタートアップが興味を持ちそうなテーマにブラッシュアップして、スタートアップを募集します。

1ヶ月程度

実証実験



4か月の協働期間で開発と実証実験を実施。中立的な立場のファシリテーターを入れて利害調整を行う。

4ヶ月程度

製品化・本格導入



実証実験の結果を踏まえ、本格導入可否を判断します。できれば随意契約を。さらに他都市への展開もサポート。

できるだけ早く

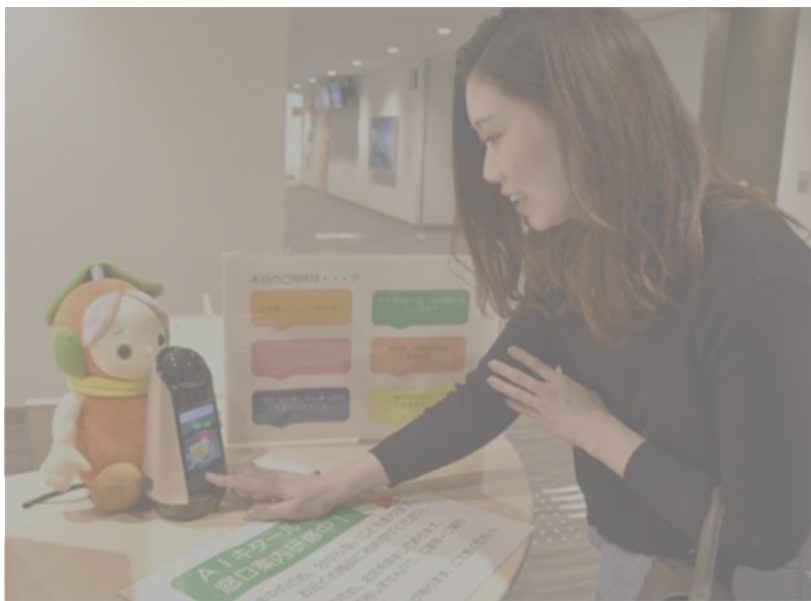
具体的な進め方を見てみましょう

神戸市 東灘区
行政窓口をスムーズに
案内できるツール
(区役所UX/UI改善実験)

Question: どちらがよく使われているでしょう？

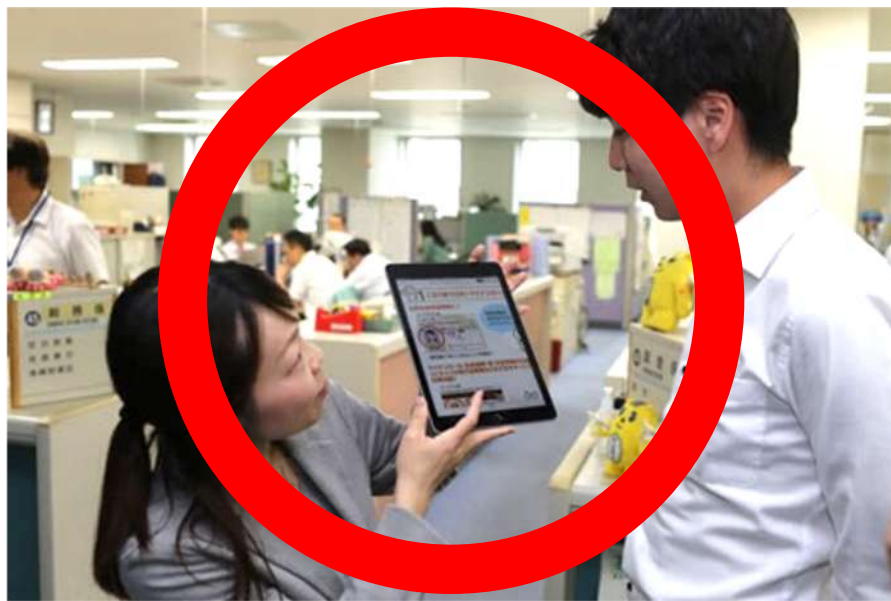
A

AIスピーカーで来庁者に窓口案内



B

職員が窓口をスムーズに案内できるiPad



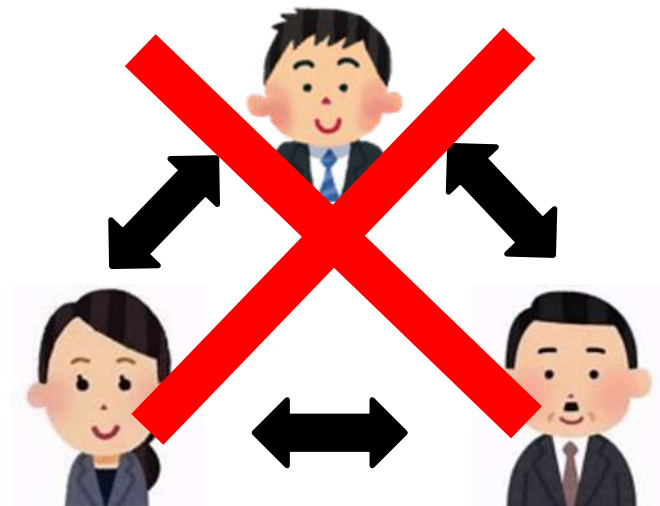
神戸市の窓口案内係とは



窓口案内係の課題



紙の案内資料が膨大



知識・経験の共有が難しい



サービスの低下に繋がっている！

ACALL(神戸市)との協業開始

ACALL



ACALL(神戸市)との協業プロジェクト

2018年9月
神戸市に本社を置く
ACALLが手を挙げる。

9月
キックオフ

10月
画面遷移や必要な機能を
議論。

1月
アプリ完成実証実験を
2日間実施。対応時間
を計測

顧客ニーズを把握する
Customer Problem Fit

解決策の検証
Problem Solution Fit

製品化少数販売
Solution Product Fit

10月
区役所職員とともに課
題の整理、業務分析
東灘区役所の職員が
ストップウォッチ片手に実
際に計測。

11月
各区役所の担当
者を呼んで、1回
目のテストを実施

2月
実証の成果をもとに、
年度末のタイミングであ
りながら、全区役所へ
の展開をすすめることに。

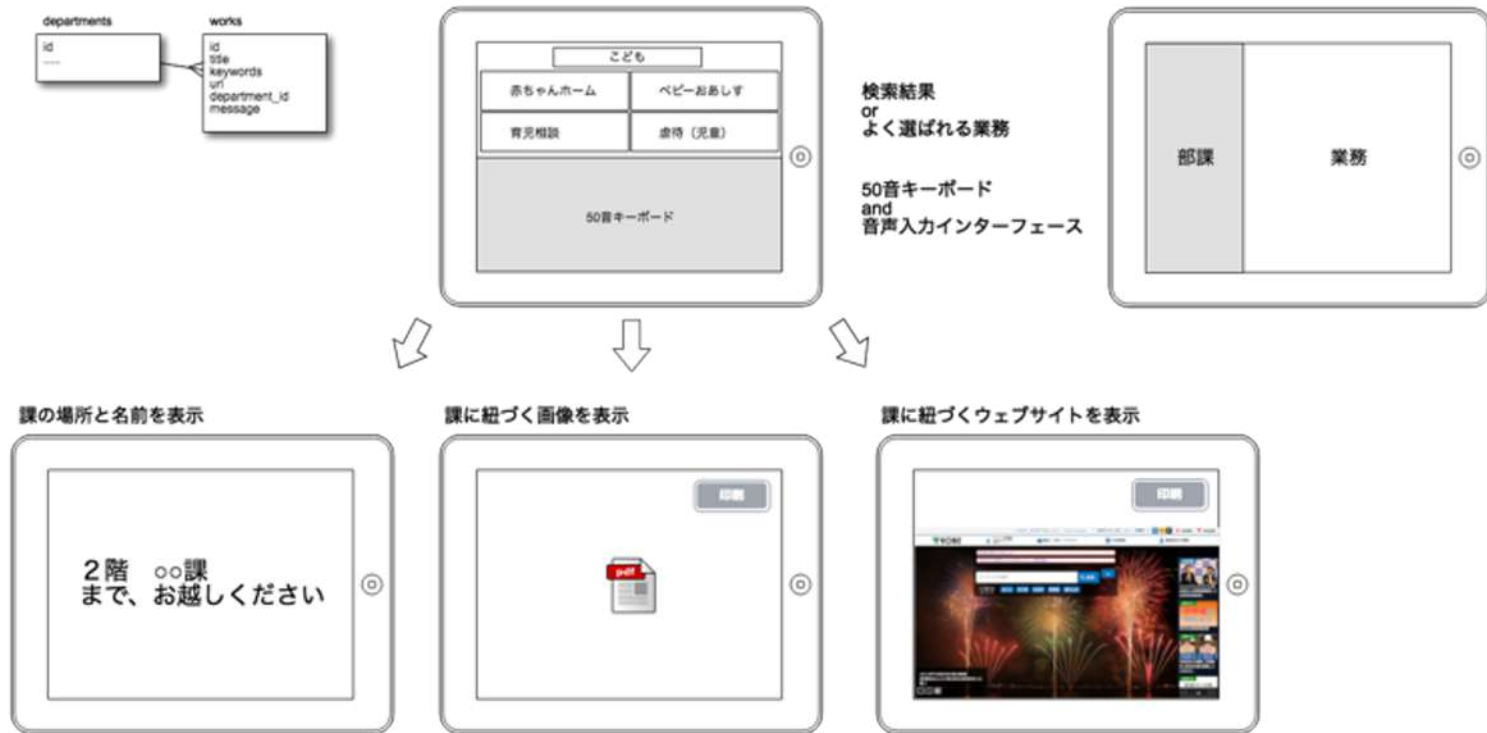


事前調査：どれくらい時間かかっているの？

職員が一件ずつストップウォッチで計測して記録。その内容が明らかに。

来庁者	時間	区役所外	案内の可否	内容・キーワード等
6	0:33	○		両替
21	4:00	○	×	死亡関係
23	1:00	○		原付
24	1:00		×	記載指導
28	0:07	○		時刻案内
34	0:25	○		認知の方(案内にいつまでいるか?等)
36	1:00		×	証明発行 記載指導
38	3:15	○	×	年齢早見表を見せてほしい(スマホで対応)
44	0:10	○		道案内
47	1:00	○	×	車検の書類の確認(納税証明)
48	4:00		×	外国人の方
50	1:00	○		ワケトブック
51	0:45		×	住民票記載事項証明
55	0:10	○		時刻案内
58	0:50		×	パスポート申請用紙
71	1:30	○	×	三井住友銀行の確認手続き

仮説からプロトタイプを作ってみる



各区の受付担当者に触ってもらう

検索履歴が見たい(後期高齢者→介護と調べたあと、もう一度後期高齢者のことを聞かれた)(30代男性)

すべての保険証の画像一覧がほしい(介護保険と国民健康保険が別々のファイルになった)もっとイメージ画像が充実して欲しい。(40代女性)

制度がよく変わるので、旧制度の名前でも検索できるようにしてほしい(40代女性)



ACALL FRONT完成



ACALL FRONT

案内業務をスムーズに

[お問い合わせはこちら](#)



ACALL FRONT導入

平均案内時間の削減
案内できなかった件数の削減

半減
3割削減



市役所9区、2支所に展開

メディアにも多数掲載

神戸 13版△ 2018年(平成30年)10月16日(火) 朝日新聞

窓口案内 頼れるアプリ

神戸市東灘区役所は15日、行政窓口の案内をスムーズにする専用アプリを使った実証実験を始めた。31日までで、結果を踏まえ、アプリの継続運用の検討を進めるといふ。

実証実験は、市が抱える課題をベンチャー企業などと協力して解決していく「Urban Innovation KOB E」事業の一環。専用アプリは来客対応サービス開発・販売会社「ACALL」(神戸市中央区)が開発した。

区役所では庁舎入り口近くに案内係を配置しているが、市民からの問い合わせは多岐にわたる。そのため区役所の窓口に関すること以外にも、地域の催しといった幅広い知識が求められ、案内係個人のノウハウに頼る面が大きいという。

そこで実験では、区役所1階の総合案内に立つ係員に、専用アプリ「ACALL(アコール)」が入ったタブレット端末を持たせ、案内時間を計測。タブレット端末を持た

東灘区役所が実証実験

総合案内に立つ案内係の職員がタブレット端末で窓口を検索して案内する。神戸市東灘区役所

い場合の案内時間の変化や、対応できた質問の数を検証する。

タブレット端末にキーワードを入力すると、受付窓口を検索、案内できる。区役所以外の窓口を案内する場合は地図を印刷して渡さるという。(露田智憲)

職員の業務手助け



2018年10月16日(火) 朝日新聞

3 総合 2019年(平成31年)1月9日 水曜日 神戸新聞

IT 市役所 ミライ形

アーバンイノベーション神戸 ②

タブレット使い 円滑に 窓口対応

1日平均約200人が訪れる神戸市東灘区役所の窓口案内「印刷版」は「「介懐係の力を救ってほしい」と多岐にわたる。庁内の組織、仕事に精通し

ていなければならず、知識と経験が必要だが、専属で担当するのは経験豊富な若手社員。ノウハウの継承などには課題となっている。

同区役所では、初心者でもスムーズに窓口対応できるように、無人受付システムを導入している。ACALL(アコール)神戸市中央区)と、案内業務のデジタル化に取り組んだ。

窓口担当者はこれまで、数分かかるマニュアルを参照していたが、アコールはデータベース化された、タブレットに「国民健康保険」とキーワードを入れば、加入、脱退、保険料の相談などの項目が出て、それらの担当が示される。内容は随時更新でき、利便性向上に努めた。

昨年10月の実証実験は、窓口経験のない職員が実務、平均案内時間が約1分から2分短縮でき、案内できなかったケースも削減された。

同社の情報執行CEOは「利用者の声を反映しながら、新しいシステムを構築できた」と自信を見せる。ほかの自治体からの問い合わせもあるといい、今後全国展開を目指すという。

あすからの天気

開	開	開	開	開	開
9:00	12:00	11:00	12:00	11:00	11:00
2	5	6	6	5	5
8:00	11:00	9:00	9:00	9:00	10:00
1	2	3	3	2	2

2019年1月9日(水) 神戸新聞

参加者の声



ベンチャー企業さんがどんな感じが漠然と不安でしたが、普通の仕事が好きで一生懸命やる人だった。民間の方と同じ目標を持ったチームとして仕事をするということが、新しい体験でとても楽しかった。

実証実験で失敗の場を与えてもらった感じでした。失敗してもいいからこそ、新しいことにチャレンジできて、チャレンジできたからこそ、課題の本質に近づけたのかなと思います。



UIJを通して、事前の調査や、一回試しにやってみるのが大事なだと学びました。また、プロジェクトに参加して以降は、根本的な課題は何なのかを考えるようになりました。

なぜうまくいったのか？

【自治体職員側】

- ✓ 担当者が自ら手を挙げる
- ✓ 失敗を許容する
- ✓ 上長が権限移譲する
- ✓ 労を惜しまずデータ収集

【企業側】

- ✓ 協力的な企業（開発者自身が東灘区民）
- ✓ 洗練されたUX/UIデザイン

どうやっているの？

Urban Innovation Japanの進め方

庁内課題募集



現場担当課の職員が手を挙げて、プロジェクトがスタート。主に解決したい困りごとはあるが、予算や解決手段を持たない人が参加。

1ヶ月半程度

スタートアップ 募集・選定



実証実験が可能なサイズ、スタートアップが興味を持ちそうなテーマにブラッシュアップして、スタートアップを募集します。

1ヶ月程度

実証実験



4か月の協働期間で開発と実証実験を実施。中立的な立場のファシリテーターを入れて利害調整を行う。

4ヶ月程度

製品化・本格導入



実証実験の結果を踏まえ、本格導入可否を判断します。できれば随意契約を。さらに他都市への展開もサポート。

できるだけ早く

協働期間の流れ

1ヶ月目

方向性の決定
・週一度程度の
打ち合わせ
(+宿題)

- ・ 実証実験のゴールの決定
- ・ 週一回のミーティング
- ・ データ収集、市民へのインタビュー、現場視察など実施

2ヶ月目

α版の開発
・アイデアの
ブラッシュアップ

- ・ スタートアップによる開発
- ・ テストの調整
- ・ プレスリリース準備

3ヶ月目

β版の開発
・使いやすさの向上
・デザイン・UIの改善

- ・ スタートアップによる開発
- ・ テストの調整
- ・ プレスリリース準備

4ヶ月目

ユーザテスト
・実用性の確認
実証実験
・庁内調整・広報

- ・ 実証実験の立ち会い
- ・ データ調査、アンケート
- ・ 報告書作成



神戸での成果(2019年まで)

全国初

2018年より、本格的に
運用開始

30件

の採択

12~13件/年を採択

1

2

4

3

課題解決率 **70%**以上

実証実験で設定した
KPIの達成

継続利用率 **40%**以上

開発したサービスを契約し
継続利用中



Urban Innovation JAPAN

スタートアップと行政職員が協働する課題解決プロジェクト

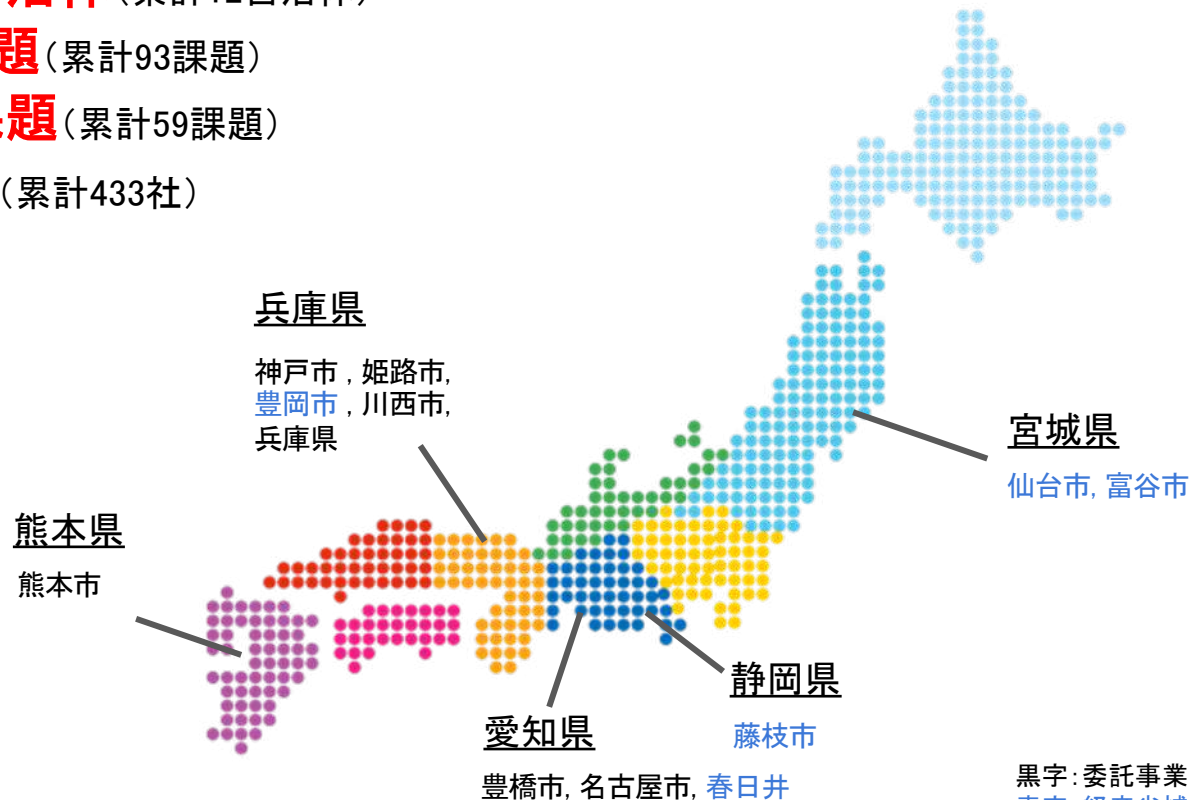
昨年度の展開

参加自治体数: **11自治体** (累計12自治体)

募集課題数 : **56課題** (累計93課題)

実証実験件数: **31課題** (累計59課題)

応募総数 : **229社** (累計433社)



黒字: 委託事業
青字: 経産省補助金事業 27

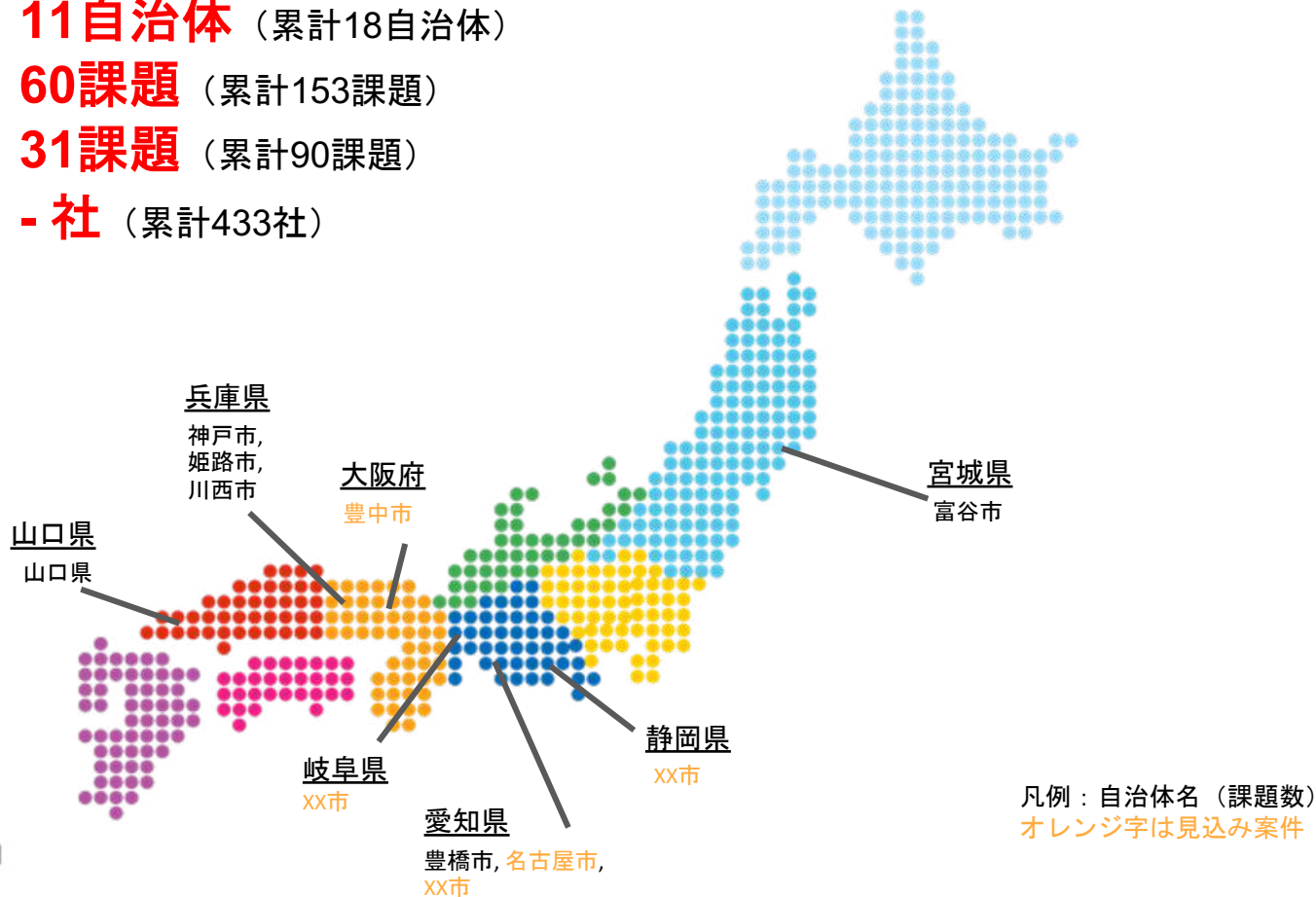
今年度の展開(予定)

参加自治体数 : **11自治体** (累計18自治体)

募集課題数 : **60課題** (累計153課題)

実証実験件数 : **31課題** (累計90課題)

応募総数 : **-社** (累計433社)



Urban Innovation Japan事例

長田区まちづくり課 子育てイベント参加アプリの実証開発

課題

子育てイベントの認知度が低く、参加者も少ない

提案

紙のチラシを電子化し、イベント情報を共有できるサイトを導入



ためま株式会社



長田区 総務部 まちづくり課

実績



イベントの参加者数 **+44%増**
サービス満足度 **98%**

神戸市三宮再整備課 革新的プロモーションツール実証実験 三宮再整備

課題

三宮再整備に対する市民の関心をもっと高めたい

提案

地図上に写真やコメントをタイムカプセルのように記録するアプリを使って、まちの未来の姿に関心を持ってもらえる仕掛けづくりを行う。



ディグランド株式会社



住宅都市局都心三宮再整備課

実績



三宮再整備の認知向上イベントを実施
761名が再整備スポットを訪問

神戸市住宅都市局公共交通課 地域コミュニティ交通の予約システムの実証開発

課題

事務員が電話で対応しているコミュニティバスの予約管理を効率化したい。

提案

他自治体で実績のある運行管理システムをベースに音声自動応答による電話予約システムを開発



コガソフトウェア株式会社



住宅都市局公共交通課

実績



自動音声応答により、運営事業者の予約管理業務を削減



神戸市商業流通課

子育て世代に届けたい！商店街・市場の魅力発信

課題

商店街・市場と関わりが薄い若年層・子育て世代に、商店街・市場に足を運んでもらい、賑わいづくりがしたい。

提案

商店街でのイベント情報を、ためまっぷにより情報発信し子育て世代に届けるとともに、子育て世代層に人気の子ども服の交換会を開催し、具体的な来街、普段使いに繋げる。



ためま(株)・(株)ブルースタイル



経済観光局 商業流通課

実績

- 紙のチラシ情報を「ためまっぷ」で配信。従来の新聞折り込みに比べ**20倍の広報効果**。
- 大安亭市場と長田神社前商店街にて、子ども服の交換。**275名が参加**。
- 普段商店街を使わない層が**28%となり新規顧客**の集客に成功。

課題

空き家の情報を単なる情報の蓄積で終わらせず、流通するまでの流れが可視化された、「活用できるデータベース」のシステムをつくりたい。

提案

市民調査員がタブレット等を用いて空き家の現状を調査し、「kintone」にて管理・閲覧・分析を実施。流通にいたるまで活用できるシステムが構築する。



実績

👉 @@@@

課題

地域コミュニティセンターの運営業務の負担軽減により、各校区の町内会などの地域づくり活動の支援に注力し、地域活動を活性化させたい

提案

市民のコミセン利用の利便性向上のためオンライン予約システムを構築
利用状況月報、収入管理簿の集計も自動化し、コミセン運営の業務効率化を実現



熊本市 中央区まちづくりセンター

実績

- 月報処理の時間が、**大幅に削減できる見込み**。二重、三重に管理していた予約管理を一元化し、誰でも予約が受け付けられる状態。
- 今後、さらなる展開により新規ユーザーの獲得に効果が期待される

宮城県富谷市 地域福祉課 地域共生社会の実現／重層的支援体制の構築

課題

市役所内の速やかな横断的連携により、市民からの相談に最適な支援を提供したい

提案

相談内容を共有し、組織を超えたコミュニケーションを行えるシステムを開発
最適な解決策を見つける支援体制づくりを実現



有限会社エーアイティ研究所



富谷市 地域福祉課

実績

- 👉 各部署間の連携がスムーズになった（定性的評価）
- 👉 案件の経過が見えるようになり、市民の解決度合いがわかるようになった
- 👉 今後、さらなる展開により新規ユーザーの獲得に効果が期待される

宮城県富谷市都市整備課 街路灯管理の効率化

課題

市民の安全を守る道路照明灯と防犯灯の維持管理を効率化したい！

提案

道路照明灯、防犯灯の台帳をデジタル化し、MAPと連携したデータベースを構築
工事事業者との間の維持管理業務プロセスのデジタル化を達成した。



あっとクリエーション(株)



道路照明灯



防犯灯

都市整備課

実績



工事発注、月次報告にかかる時間の**大幅短縮**。業務効率化を実現
FAX・電話も**大幅削減**

課題

既存の給与システムが、給料表を都度見直す行政にフィットしていない

提案

教職員による通勤経路等の申請・管理を行える「届出システム」と、
教職員課が給料表の変更が容易にできる「給与システム」を開発。

honeycome

come to honeycome, and be happy

(株)Honeycome

×



教職員課

実績

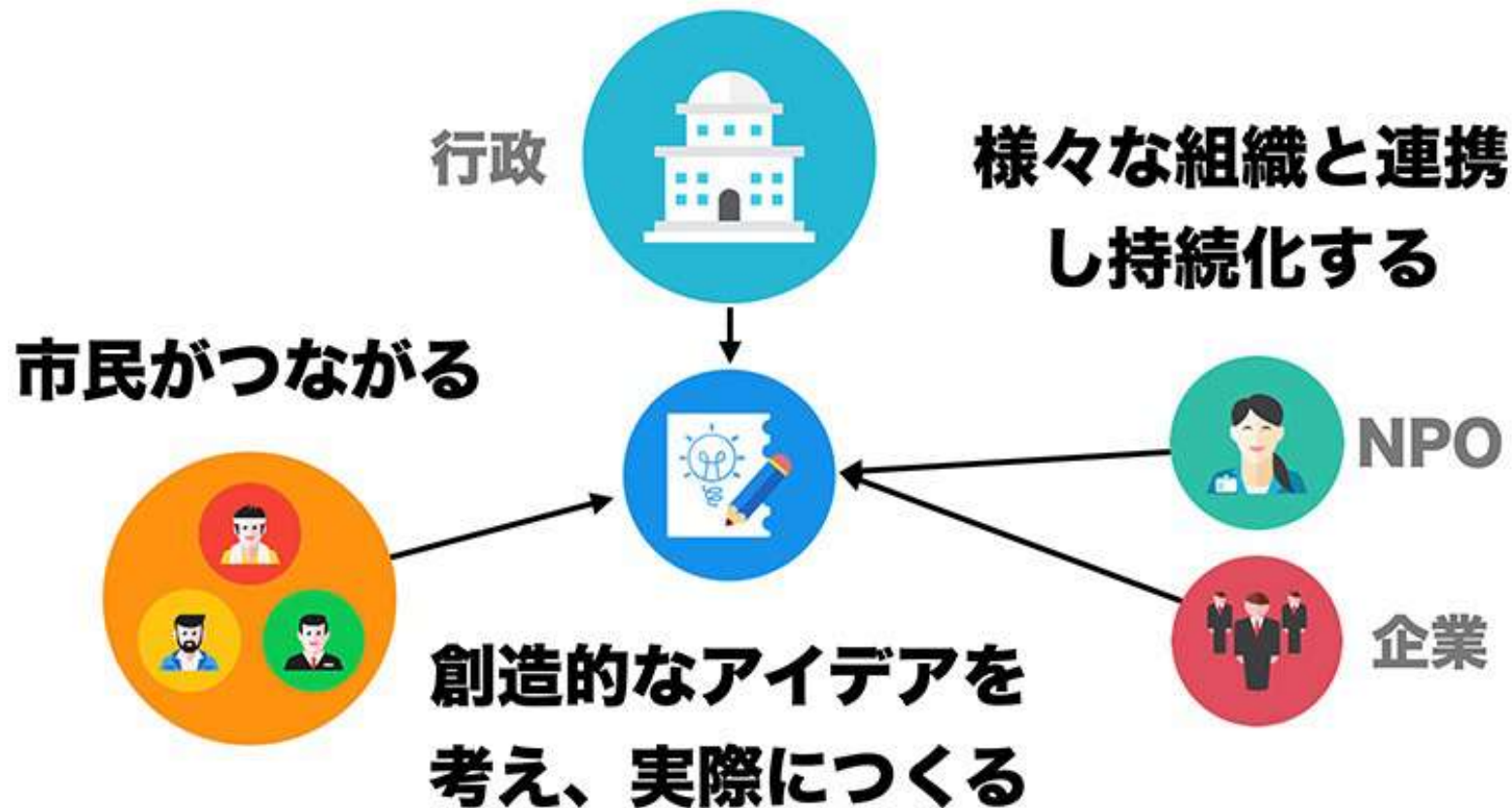


3000時間/年の業務削減、4億円超/5年の費用削減を達成！

シビックテック？



シビックテックとは？



最近のシビックテック事例



新型コロナウイルス感染症
対策サイト

多言語対応選択メニュー

Lang: 日本語

山口県内の最新感染動向

新型コロナウイルス感染症が心配な
ときに

ワクチン接種に関するお知らせ

ご家庭でのマスク等の捨て方

新型コロナウイルス感染症 関連情報

新型コロナウイルスに関連する相談窓口

山口県民の皆様へ

お子様をお持ちの皆様へ

企業の皆様・はたらき皆様へ

医療機関の皆さまへ

山口県の対策

県内各市町の対策

知事からのメッセージ

当サイトについて

他都道府県の新型コロナ対策サイト

山口県内の最新感染動向 最終更新 2021/05/27 19:41

最新のお知らせ

最新情報はこちら

- 2021-05-27 全国知事会「第23回新型コロナウイルス緊急対策本部」の開催について
- 2021-05-26 新型コロナウイルス変異株PCR検査の結果について
- 2021-05-25 新型コロナウイルス感染症感染者の死亡について
- 2021-05-25 新型コロナウイルス感染症の感染者の発生について（第2752～2764例目）

新型コロナウイルス接触確認アプリ（厚生労働省）

厚生労働省が公式提供する、新型コロナウイルス陽性登録した人との接触をお知らせするアプリです。

このアプリを設定した人どうしの接触（1m以内、15分以上）が記録されます。新型コロナウイルスに陽性と判定されましたら本アプリに匿名で登録することができます。最近接触した人の中に陽性登録した人がいましたら、通知と適切な行動をお知らせします。



自分や家族の症状に不安や心配があればまずは電話相談をどうぞ

陽性患者数 0 人

5月27日 日別値（前日比-41人）

（注）山口県公式サイトにて公表された日を基準とする
（注）医療機関等が行った検査も含む

日別 累計



陽性患者の属性 2834 例目

2021-05-27の累計

No	公表日	居住地	年代	性別	種別
2834例目	2021/05/26	下関市	20代	男性	下関
2833例目	2021/05/26	区賀保	70代	男性	下関
2832例目	2021/05/26	下関市	40代	女性	下関
2831例目	2021/05/26	下関市	60代	女性	下関
2830例目	2021/05/26	下関市	10代	男性	下関

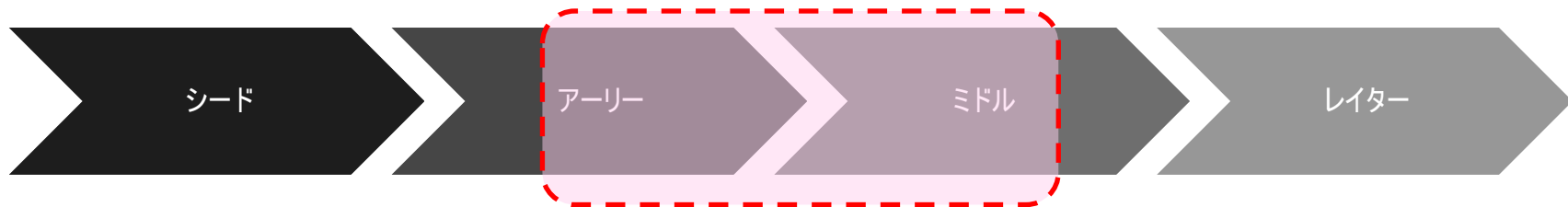
シビックテックの課題

- ① 行政との連携ハードルが高い
- ② データ不足
- ③ プレーヤー不足
- ④ 持続可能性が低い

なぜスタートアップがフィットするのか



対象企業



- 4ヶ月の実証実験で成果を出すには、ゼロから開発する期間はないため、類似領域で製品がすでに存在することが望ましいです。(β版でも可)
- また、すでに売上が上がっており資金的に困っていない、あるいは投資を受けて資金的に余裕がある企業が望ましいです。(自治体事業は収益化するまでに非常に時間がかかるため。)
- スタートアップだけではなく、第二創業や中小企業の新規事業も対象とします。提案する事業を自社サービスとして展開していく気概があるかどうか重要です。

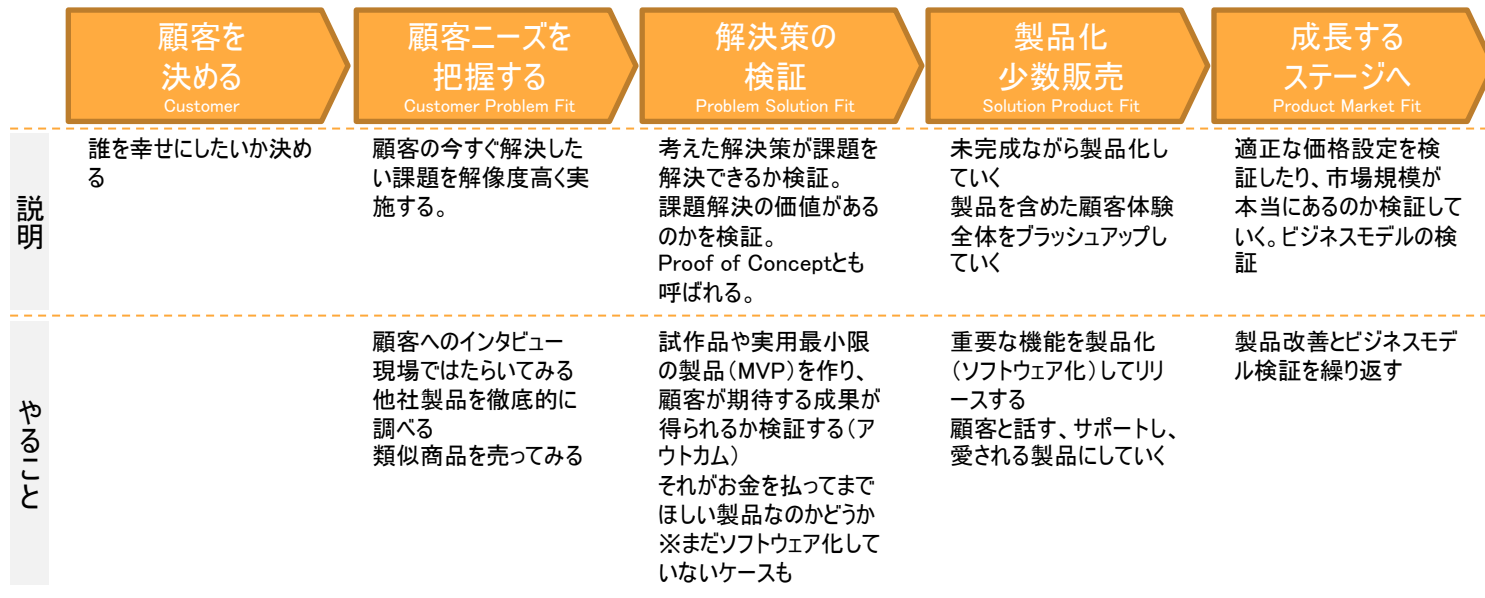
スタートアップの製品開発

- ① 製品を小さく作る
- ② 顧客の課題を解決できるか確かめる
(Proof of Concept)
- ③ 正しい市場を狙っていることを確かめる
(Product Market Fit)

ビジネスが成長軌道に乗る

スタートアップの成長フェーズとUIJの関係

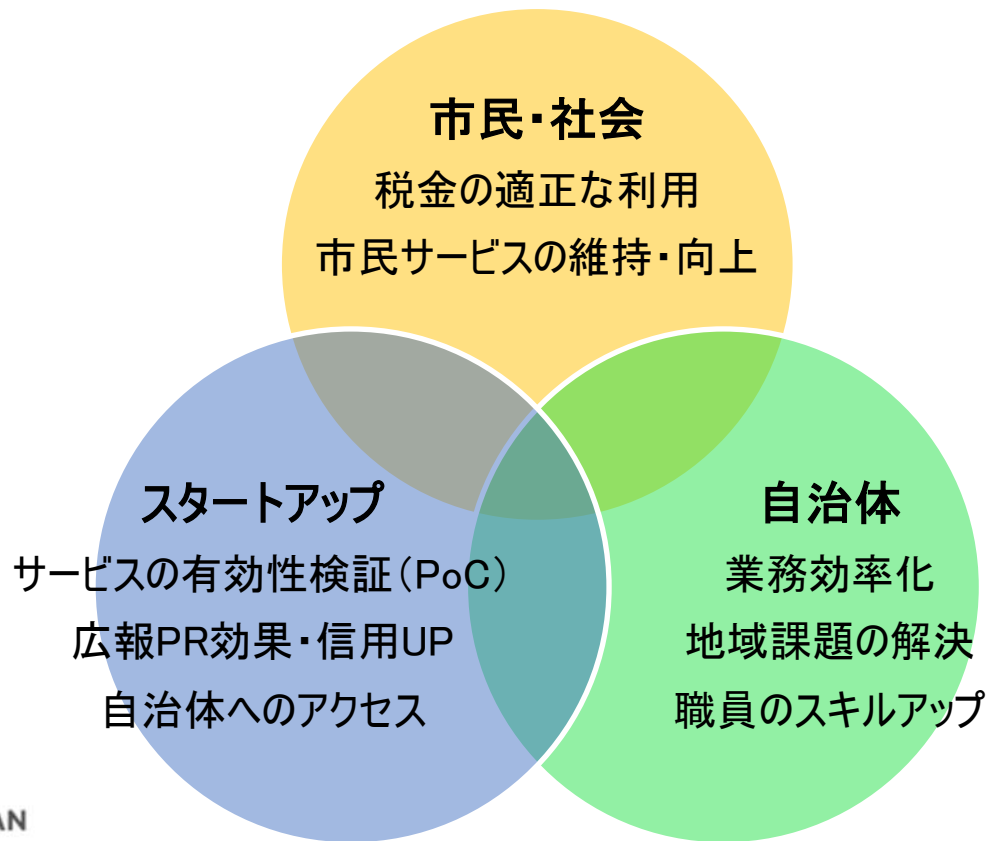
スタートアップ(企業)は自らのビジネスを成立させるために、常に仮説検証を繰り返している。
Urban Innovation Japan は、彼らの仮説検証のフィールドを提供している。



解決策の検証～製品化を自治体との協働プロジェクトによって検証していく

Urban Innovation Japanのミッション

市民、自治体、スタートアップ企業の「三方よし」を目指すプロジェクト



自治体職員と企業の
まちや社会を良くしたいという情熱を
形にできる世界をつくる

みなさんのアイデアを実現したら、
どんなふうの実証実験を行うと
成功率があがるか考えてみましょう。



課題調査票(の解説)

実現したいこと一言でいうと	
なぜそれをやりたいのですか？	
解決したいのは誰の、どんな困りごと？	
やりたいことを詳しく教えてください (想定する解決策・実証実験内容)	
何を達成できたらゴール？	
提供可能な情報や資産 これまでの取り組みなど	

私個人の失敗事例

私自身の経験① 浪江町での経験



私自身の経験① 浪江町での経験



私自身の経験① 町民向けアプリの開発



なみえ新聞

毎日夕方、浪江町や福島県の情報を配信するニュースアプリ。開発のきっかけは「お悔やみ情報がみたい」というアイデアソンでの町民の声。どこに居ても浪江町の情報が手に入る。福島県の新聞・テレビのニュースや浪江町役場や復興支援員からの情報などを自動配信。一番人気は町民自身が写真と一言コメントを投稿するコーナー。



なみえ写真投稿

町民が自分の撮影した写真に一言を添えて投稿できるアプリ。投稿した写真とコメントは、「なみえ新聞」に掲載され、翌日には町民の目に届く。ウィザード形式で、タブレット初心者でも簡単に投稿することができる。桜の季節には1日の投稿が40件近くになったことも。「なみえ新聞の写真で見た！」と電話のやりとりが生まれたことも。

私自身の経験① 町民向けアプリの開発



定量的成果

- タブレット配布:7900台
- 利用率:80%達成
(他の多くの自治体は50%程度)
- なみえ新聞の閲覧数: ピーク時2000人/日、直近は約1600人/日
- なみえ写真投稿の投稿数:ピーク時30件/日、直近は10~15件/日



町民の声

「仮設住宅に住んでいるが今まで周囲の人たちとの交流がなかったがタブレットが配られてから近所の人たちに教えるようになった。生き甲斐をありがとう」

「震災後はじめて親友の顔を見ることができた」
「アプリも使いやすくてインターネットもできるので、つい使いすぎてしまういいタブレットをありがとう」



タブレット以外への波及効果

タブレットのマスコットキャラクターとして、町民に公募して生まれた「うけどん」が大人気に！

町民が自作のTシャツをつくるなど町民の間に定着している。県内外でタブレット講習会を約50回開催し、1,700人超の町民が参加。タブレットの使い方を学ぶだけではなく、久々の再会があるなど新たな交流の場にもなった。

私自身の経験① 町民向けアプリの開発

ポイント1

徹底したユーザーインターフェースの設計

何度も市民にテストしてもらい、ユーザーインターフェースをとにかく使いやすいものに設計した

ポイント2

普段の生活に溶け込ませる設計

「絶対にほしい情報を提供すること」(お悔やみ)
「今ある生活の流れに自然に溶け込ませること」(新聞)

ポイント3

つまづかないためのユーザーサポート

講習会、マニュアル、電話・窓口サポートで、離脱者を最小限に減らす包囲網をつくる、データを元に繰り返し機能改善を行う

ポイント4

情報の新鮮さ、飽きさせない仕組み

毎日情報が更新されること、人々の関心がどこにあるのかチェック
使うたびに新たな発見オドロキがあること

私自身の経験① 町民向けアプリの開発

すべてが仮説と検証の繰り返し



最初からできたわけではありません。

一年目はボロクソ失敗しました。

失敗しながら、

うまくできるようになっていきます。

デジタル化を阻むものってなんですか？



デジタル化を拒むもの

- ① 人・組織
- ② 法律・制度
- ③ 慣習
- ④ コスト



事実を集め、
実績をつくる

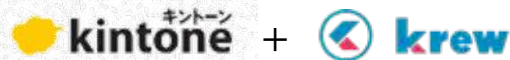




対象者

- 行財政改革推進課（総括）
- 施設所管課（22部署）
- 指定管理施設（99施設）

構築システム



費用対効果の観点から、指定管理施設にはkintoneを導入しない

- ①施設所管課がアプリを作成
- ②施設所管課がアプリに対応するインポート用のフォーマットファイルを作成し、施設に提供
- ③施設がインポートファイルに入力し、月単位で施設所管課に提出
- ④施設所管課がインポート

実証フィールド

[施設名] 高岡市民センター
[指定管理者] 株式会社ビケンテクノ
[入力期間] 令和2年3月分

課題

マップをどのような人に活用してもらっているか分からない。
どの程度、誘客に繋がっているかの把握が難しい。

提案

電子版「神戸スイーツマップ」を作成し、情報発信



レポハピ株式会社



経済観光局 ファッション産業課

実績



31店舗が参加し、プロモーション展開 (期間 : 7/1~11/30)

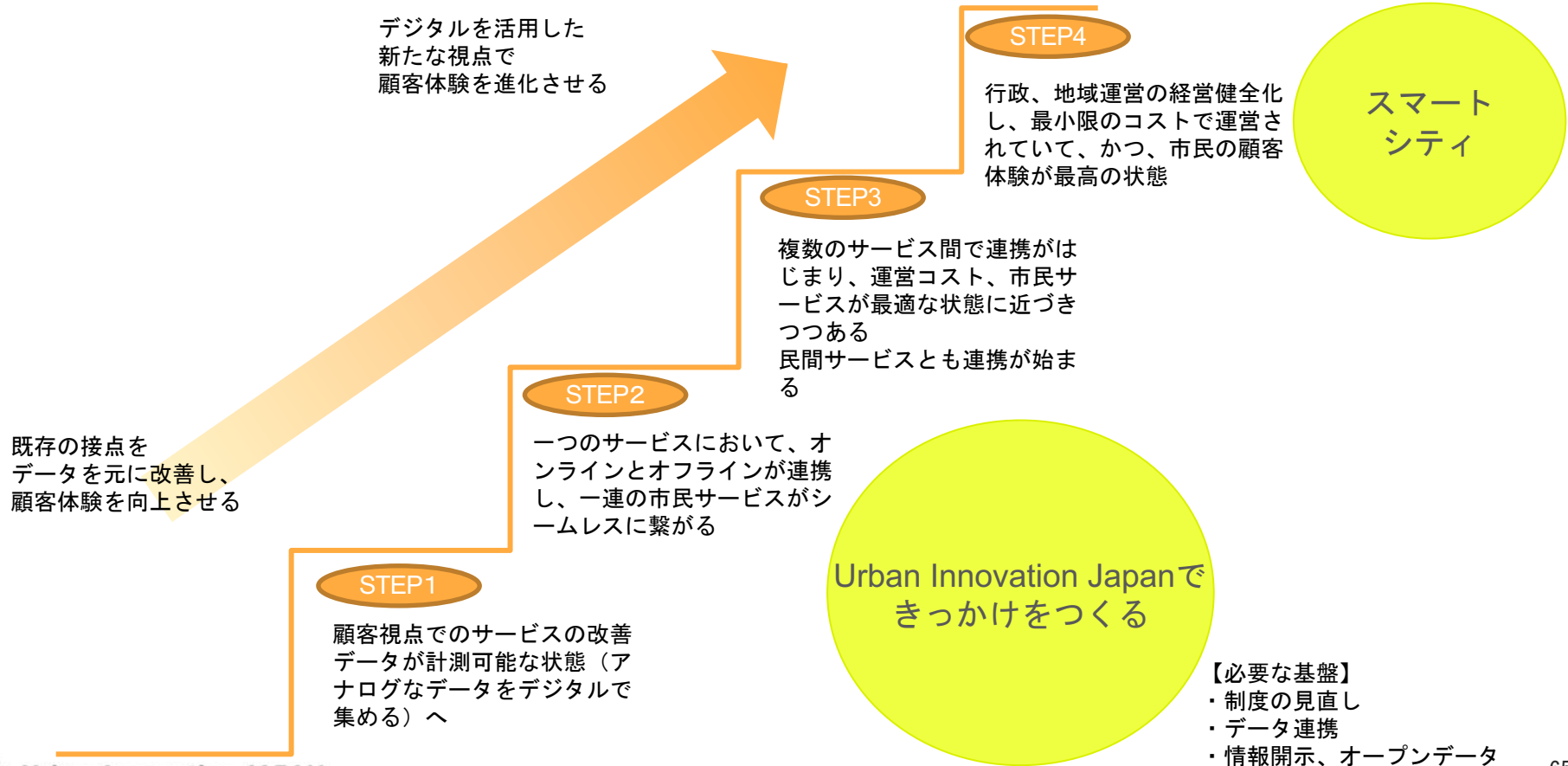


47,000PVアクセスただし、来店が**0件** 紙のスイーツマップの配布を見直し

持続可能性な自治体とは



目指す方向性

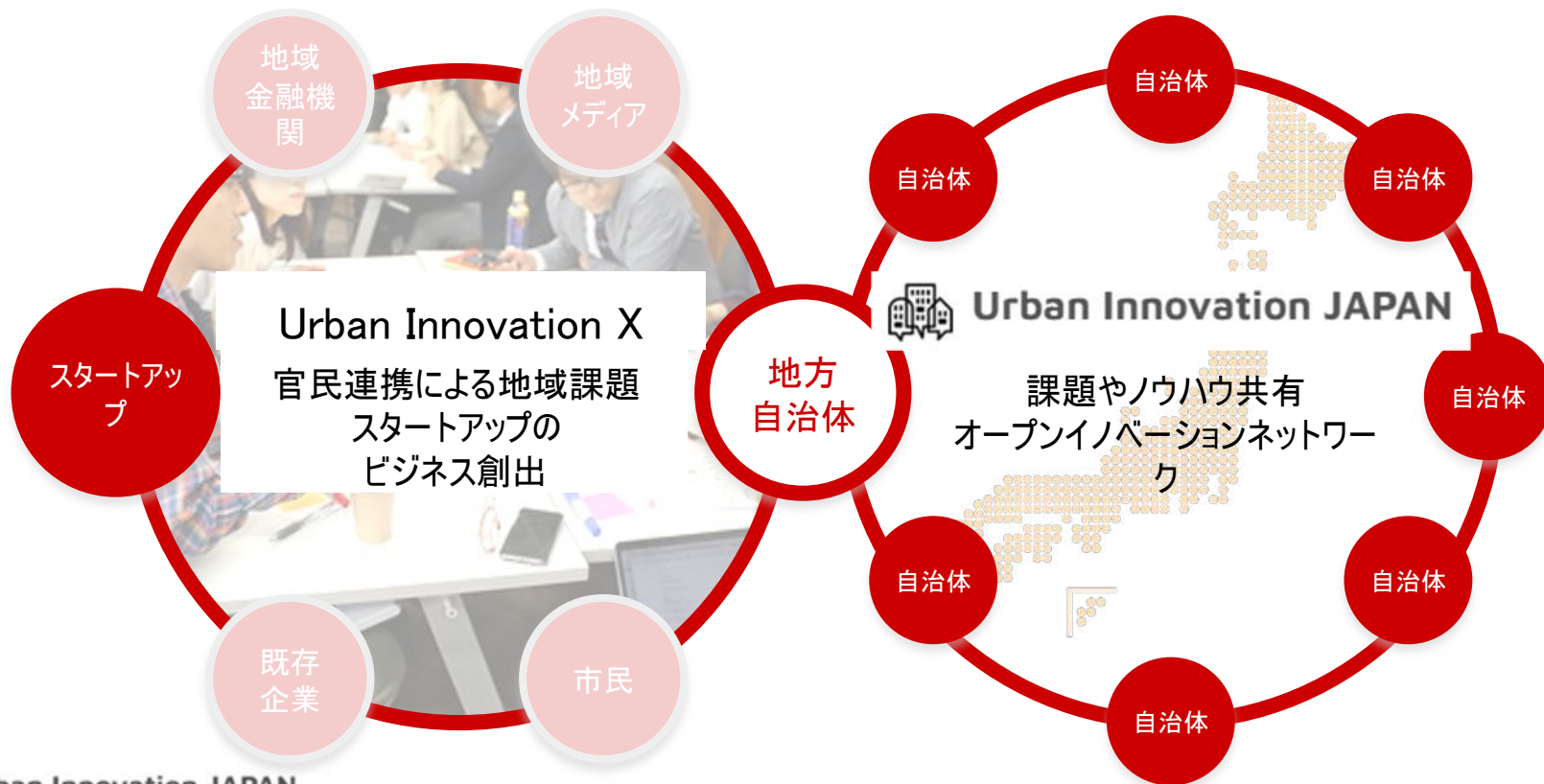




Urban Innovation JAPAN

スタートアップと行政職員が協働する課題解決プロジェクト

全国展開へ



「シビックテック チャレンジ YAMAGUCHI」 地域・行政課題の募集について

募集期間

令和3年5月28日（金）～ 6月18日（金）

提出方法

「課題調査票」に記入し提出

- ※ とりまとめが出来ましたら提出をお願いいたします。
提出された市町から、随時ヒアリングをさせていただきます。

「シビックテック チャレンジ YAMAGUCHI」 課題調査票

自治体名	〇〇〇市
課室名	〇〇〇〇課
担当者名	〇〇〇〇
連絡先	電話：〇〇〇〇、メール：
実現したいこと一言でいうと何	
なぜそれをやりたいのですか？	
解決したいのは 誰の、どんな困りごと？	
やりたいことを詳しく教えてください (想定する解決策・実証実験内容)	
何を達成できたらゴール？	
提供可能な情報や資産 これまでの取り組みなど	